

～倶楽部創立25年によせて～

<その3：里山部会の成り立ち>

倶楽部創立20周年記念誌より

【部会発足の経緯：2000年スタート！】

《1期（創生期）》白木で地域活性のシンポジウムが開催され、パネリストとして見勢井顧問(当時 理事長)が登壇。「子どもの自然体験の場を探している」という発言をしたところ、翌日、所有者の小川氏から連絡があり、放置林を使用することを提案いただきました。

さっそく笹刈り、道づくりから始まり、竹炭造り・椎茸栽培をメインで行いながら、駐車スペースの整備・炭焼き窯の設置・炭焼き小屋・作業小屋・バイオトイレ・ピザ窯の設置・椎茸圃場の鹿猿等の獣対策ネット張り等、フィールドの環境整備を進めることが出来ました。



里山の環境は、自然の恵みを受け、時には自然と戦いながら営みを築き上げ、長い年月をかけて水田耕作や林業・放牧などの伝統的な自然の営みから形成されてきました。里山部会の活動の目的は、持続的な自然環境の利用の場として、炭焼きや椎茸栽培、堆肥作り等里山文化を担い、多くの生物を育む場として、また体験活動のフィールドとして里山の再整備を実施する事です。



フィールド入り口付近。当時はうっそうと笹が繁り、3度に渡る刈り払いが必要でした。(H14.9.3)

【竹炭、シイタケ栽培等活動を継続、地元の活動にも参加】



ドラム缶炭焼き窯設置、空焚きを行って不具合が無いか確認中。(15.1.12)

《2期》竹炭造り・椎茸栽培を継続しながら、テラス小屋（雨天時の避難所）を作り、作業環境的には整いました。その後、落ち葉からの堆肥作りや例会活動で各地から持ち帰った材の有効利用として薪作りにも取り組みました。又作業環境を維持する為に、各小屋の補修修理（立て替えよりも手間が掛かる）を行っています。

H26年12月～H27年1月には、地元岡地区の獣害対策として5回にわたり地元の要請により共同で、里山の境界線沿いに猪・鹿対策フェンスを設置し、さらに、H27年よりフィールドで取水させて頂いている白木山からの灌漑用水路の整備にも、年2回地元の方のお手伝いとして参加をしています。（現在も継続）

これらの活動により、里山部会（もりメイト倶楽部 Hiroshima）に対する地元の方の理解が深まり、フィールド周りの私有林の手入れを依頼されるようにもなりました。



【これからの里山部会】

「私たちに出来る事から」と言う合言葉で、もりメイト倶楽部 Hiroshima の初の部会として平成12年に正式に立ち上げた里山部会。これまで雑木林や竹林の整備をはじめ炭焼き・椎茸栽培など、里山の恩恵を活かす文化を伝承してきました。これからは他の活動場も視野に入れながら、これまでのスキルを生かして多くの市民に対し、あらゆる自然体験活動を積極的に事業化していき、社会貢献度を上げるとともに自立した部会を目指して行きます。

今一度、初心に戻り倶楽部員が「いま私に何が出来るか」を考え、一歩先ゆくボランティア団体を目指して、地域の人々と倶楽部員とが「楽しく愉快地に過ごせ、何でも話せ信頼関係を築ける」里山部会にし、また、地域活性化のお手伝いをさせて頂きたいと思えます。

《歴代里山部会長 初代：松村允雄。2代：北田正仁。3代：岩田幸信》



炭焼き小屋の上棟式を終え、パチリ(15.2.16)



2基の炭焼き窯の間にピザ窯を作りました。溶鉱炉の中古耐火レンガを頂きモルタルで作る本格的ピザ窯の完成！(16.5.9)